

# みどりの風



医療法人 みどり会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2071  
 社会福祉法人 松樹会 枚方市藤阪中町3番20号 ☎072-868-2190  
 URL <http://midori.jp.org/> E-mail [midorii@io.ocn.ne.jp](mailto:midorii@io.ocn.ne.jp)

編集責任者：理事長 中村 猛  
 編集：季刊誌発行委員会

## 夏季号所感

理事長 中村 猛



今年の梅雨は長雨で、7月の終わりまで続き、8月になってやっと猛暑の真夏日がやってまいり、“みどりの風 夏季号”をお届けすることとなりました。田園の稲や山々の緑が強烈な陽射しの中、ぐんぐん生長とその緑の色を濃くしてきております。

一方、私共の入院、入所施設では医療介護等のお世話に支障なきよう、又食事、空調等に手抜きなきよう、又スタッフも自己健康に気をつけ、

この厳しい暑さをのり越える努力をしております。

さて、この4月の診療報酬の改定で史上最悪の医療費削減が行われまして、私共の2病院もその中でも医療の提供の質が落ちないように、取り組んでおります。中村病院に於きましては、3つの病棟の急性期、慢性期入院の再編を行い、その施設基準の申請もこの7月でほぼ完了しました。療養型病棟では慢性期の入院患者様の毎日の状態をチェックして、日々の病状変化に対応して加療を行っております。中村記念病院は、この8月が全館回復リハ病棟にすべく、暫定期間に入っており、スタッフ一同リハビリ専門病院としての質の向上、実績のアップに向け、頑張っている所です。その他介護関連施設、在宅部門におきましても、利用者の方々の情報が我々お世話する者に共有されますよう、その集約と発進のシステムを構築しているところであります。

いま、我が国の少子高齢化社会の中、大きな社会保障費の伸びを国家財政難のためくい止め、削減しようと、その財政至上主義の改革のもと、次々と抑制案がとられております。国民の税金、年金、健康保険料、介護保険料等の負担増大の中、今後のあるべき社会福祉国家としての、その高負担に見合う高福祉の議論が立ち消えになり、むしろ年金、医療介護等の抑制、低福祉政策がとられてきております。いったい、高負担に見合う高福祉の議論はどうなったのか、疑問に感じます。高齢者の方々の未来の見えない不安定、切り捨ての社会にならないようにしたいものです。

最近、社会の格差が広がり、最低限の生活が出来ない階層が増加しているようです。先日のテレビドキュメンタリーで放送されたWorking Poorで、働けど働けど暮らしていけない、社会がチャンスを与えない、見捨てられた階層が、老若の年齢層にとられず、都会でも農村でもその沈黙層が増えている放映を見て、将来に対し大変な問題を感じました。今からすぐ一人一人が出来る、社会を良くし、明るくすることを実施し、国は貧しき者、弱者への夢と希望、努力、目標を与える政策を实らせていただき、若き世代から後世へ明るい希望をつないでいてもらいたいものです。

この猛暑の中、何だか暗い話になりましたが、私共も出来る限り汗をかき、身を呈して職務の向上、社会への貢献につくすため頑張りたいと思います。

## “挨拶は心と心を繋ぐ黄金の鎖”を学んで



講師 関谷 順子

去る6月1日、みどり会・松樹会の職員を対象に中村記念病院で研修会を実施いたしました。

講師は、帝国ホテル大阪 営業部宴会課宴会予約副支配人 関谷順子先生、テーマは、「ホテルから学ぶホスピタリティ」～接客の極意から得たもの～です。

講演会の内容として、まずホスピタリティの基本理念では“温かい

心のこもったおもてなし”、そしてホテルマンの動作には、めり張りがあり相手に対して思いやりを第一とします。その為には“笑顔”特に優しい目の表情が大切です。また、会話のポイントは相手の呼吸に合わせ、視線を合わせ、うなずき、2つの目で見て、2つの耳でよく聴き、1つの口で対応する。

特に言葉遣いには注意を払い、余分な表現は避けること等でした。

最後に、相手に敬意を示す方法として、お辞儀の体験学習も行われ時間の経つのも忘れてしまいそうな先生の所作や言葉遣いで、ただただ感服するばかりでした。

“挨拶は心と心を繋ぐ黄金の鎖”と言われております。この鎖を繋ぐ為に日々努力をしなければ……と、改めて実感した講演会でした。

(記 中村記念病院 森)



## ■ 消化器診療と私

中村病院 内科医長 澤村 英幸



消化器内科とは、一般に上部消化管・下部消化管・肝・胆・膵に大別されます。上部消化管とは、食道・胃・十二指腸（小腸も含む）における良性・悪性疾患の診断と治療が主たる内容であり、下部消化管とは大腸の良性・悪性疾患の診断と治療が行われます。肝・胆・膵では、肝においては、ウイルス肝炎を主体として、急性・慢性肝炎の診断と治療、肝炎の終末像である肝硬変症の治療、肝癌（転移性も含む）の診断と治療が主たる領域であり、胆・膵では、胆嚢・胆管・膵臓の良性・悪性疾患の診断と治療を行っています。当病院では、大阪医科大学第二内科及び京都府立医科大学の御協力のもと、腹部超音波診断、上・下部内視鏡診断及び内視鏡的治療を

中心として、消化器内科診療を行っています。近年、内視鏡的治療（癌の粘膜切除術等）の進歩は、目を見張るものがあり、また、ウイルス性肝炎の治療を例にしますと、C型肝炎では、PEGインターフェロン＋リバビリンの併用療法といった新しい治療法が続々と保険上認可されています。このように進歩していく消化器内科の最新の治療法を、時代に乗遅れず、当中村病院で提供することが私の使命であると思っています。

## ■ 健診と検診について

中村病院 検査科 臨床検査主任技師 山田 聡



毎年この時期の職場や学校では、定期健康診断が実施されます。健康診断の健診といわれるものには幾種類かがあります。例えば、労働基準法に基づき事業所単位で実施されるもの、特殊業務に携わる者を対象にしたものや自由診療の人間ドック・生活習慣病検診などがありその目的によって「健診」health examinationと「検診」screening for diseaseに分けられます。つまり健診とは、毎年定期的に行われるような病気の早期発見や健康状態を総合的に点検を行うもので、健康であることの証明をするようなものです。一方検診とは、ガン検診のように特定の病気を見つけるための健康診断という違いがあります。

その結果である検診データについても手法がひとつではありません。

というのも判定医による判断を補助するためコンピューター処理を導入していることが多く、そのためシステムの制約の中で総合判定を導き出しています。

判定区分による違いこれが報告において厄介な問題となることがあります。まず「再検査」「精密検査」のように再受診を軸とした判定区分があります。「就業可」のように受診者の就業面を軸とした区分が加わり現在では、「食習慣の改善」などの生活面を軸とした判定区分も加わってきました。「治療継続」という治療の継続をするや否を軸とした判定区分でこれもひとつの軸を形成しています。その他メンタルヘルス的なものなどいずれにしても毎回受診して各個人の健康状態や病気のスクリーニングに役立てることは重要なことといえます。中村病院でも診断・治療のほかこのような予防医学の分野に対する業務を臨床検査部門の一部として行っています。対象者も地域の事業所の職員・枚方市在住者、個人、保険組合被扶養者、学生の方々などで広範囲に存在します。受診者の方々にはできる限りスムーズに受診して頂き継続的に健康診断のデータを管理しフィードバックできるよう努力しております。

## ■ 中村記念病院 全床回復期リハビリテーション病棟へ

中村記念病院 事務長 長谷部 優



中村記念病院は、5月1日から23床の回復期リハビリテーション病棟と60床の療養病棟で運営してまいりましたが、9月1日からは全83床を回復期リハビリテーション病棟として全面的に回復期リハビリテーションを担う病院として運営してまいります。

当院の回復期リハビリテーション病棟に入院される患者さまは、主として脳梗塞などの脳血管障害の患者さまと大腿骨頸部骨折などの整形外科疾患の患者さまで、急性期病院で治療を受けた発症または手術後から「2ヶ月以内（中には1ヶ月）」のリハビリテーションを集中的に必要とされる方々です。脳血管障害は150日以内に、整形外科疾患は90日以内にリハビリテーションを医師、リハビリスタッフから受けまた看護介護スタッフの支援にて日常生活自立度を上げて在宅復帰を目指してまいります。

また、身体的にも精神的にも大変な患者さま、ご家族さまに主治医、医療相談員を中心に療養中・退院後の生活についての

ご相談で、アドバイスを差し上げるなど、中村記念病院を退院された患者さまが退院後安心して在宅、施設での生活が出来ますよう全スタッフが全力を尽くし頑張っていきたいと考えています。

さらなるご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



## 口から食べることの大切さと 私どもの施設の取り組みについて

なごみの里 管理栄養士 樋口 朋宏



口から食事が摂れるということは当たり前のようですが、高齢者になると当たり前でなくなってきました。歯も弱って入れ歯を使ったりする方もいらっしゃいます。嚥む力が弱まり、唾液の分泌も少なくなってきました。

以前に比べて食べ辛くなり、食べる物が決まって、何かしらの変化がしてきます。

また、介護保険報酬の改正で平成17年10月より「※経口移行加算」という加算項目が創設され、口から食べる事の大切さが国にも認められました。

私どもの施設の栄養科ではできるだけ利用者の能力に合わせた食事の提供を試みております。嚥む機能、飲み込む機能が低下した方には、トロミ剤を使ってペースト状にしたミキサー食を提供していましたが、べとべととしている、飲み込みづらい、味が良くないなどの意見を頂戴しており、提供している者が食べてみても「あまり美味しくないな、でも仕方がない」と言った感じで放置していたのが正直なところです。

数年前から食べやすい食事を提供しようといった動きが出てきて、研修会等が多く実施されるようになり、トロミ剤やゲル化剤の開発が進でまいりました。

このような研修会に参加し、近隣施設やトロミ剤・ゲル化剤メーカーとの情報交換で、私どもの施設でもゼリー食（ゼリー状に固めた食事）を毎食出せるところまでできました。

施設内でも関係の方々から以前に比べて食べやすくなったと言って頂くと同時に、残食の量も減りました。

これでゴールと言うことはなく、先にまだまだ幾つものハードルが続いています。

見た目の改善、触感の改善、温度の改善など...とりあえずのゴールは作っている私達と嚥む機能、飲み込む機能が低下した方が同じ食事を食べて満足すると言ったところでしょうか？それも通過点に過ぎないとは思いますが...。研修会に参加したり、本を読んでいますと、この問題についてかなり進んだ施設が紹介されており、私ども施設の食事の現状と比べると責任者として恥ずかしい思いをする事が多々ありますが、以前のように問題から目をそらし放置する事無く、少しずつ進んでいきたいと思っております。

また、口から食事が摂れなくなる原因は前にも書きましたが色々な要素があります。機能的な問題、心理的な問題、嗜好的な問題、などなどあります。栄養士・調理師ではフォローできない部分もあります。すべての利用者が最後まで、よりよい食生活が送れるようになごみの里では各職種のチカラをあわせてチームケアで取り組んで行きたいと考えております。

※経管栄養の方が少しでも口から食事が取れるように計画を立て援助すること、経管栄養にならないよう口から食事が摂り続けられる計画を立てて援助していくことです。



## 心理療法について

臨床心理士 玉置 賢

近年、高齢者施設の課題として心のケアが盛んに指摘されています。なごみの里では臨床心理士が回想法、学習療法、カウンセリング等、様々な方法を用いて心のケアに取り組んでおり、一般の施設にはない特色を持っています。心理療法を受けたご利用者から、「他の人とよく話すようになった」「生きる意欲がわいた」等、たくさんの嬉しいお声をいただいております。その他にも、認知症の進行抑制や改善に効果がみられることも少なくありません。今後もより充実した心のケアに努めていきたいと思っております。

## 在宅部門

### BMIと肥満について

訪問看護ステーションみどり 所長 廣瀬 としえ

みなさんは「BMI」という言葉をお聞きになったことがありますか？

今年の4月から始まった「介護予防サービス」の中で盛んに使われている言葉です。

しかし、実際にはよくご存知ない方が多いかと思っておりますので、今回はBMIと健康診断について簡単にご説明したいと思います。

通常、肥満を測定するには体脂肪を測定する必要がありますが、正確に測定するには特殊な設備と時間がかかるため実際には身長と体重から算出するBMIを用いるのが一般的です。

BMIはボディ・マス・インデックスの略で 体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)で求められる数値で22が標準体重、25を超えると肥満と判定します。

肥満の状態を放っておくと、糖尿病、高血圧、高脂血症、高尿酸血症などの生活習慣病を引き起こします。それらの病気は進行すると脳卒中や心筋梗塞などの病気をひきおこし、BMIが増えれば増えるほど病気の頻度が増えてくるわけです。一番病気が少ないところが理想の体重でBMIが22の状態です。

BMIが25以上でウエストまわりが男性で85cm以上、女性で90cm以上の方は内臓脂肪型肥満の可能性があり病気の合併が多く見られます。

BMI値が肥満型の人を見ると、いずれも多いのは40代、40歳から74歳でみると男性の2人に1人、女性の5人に1人に内臓脂肪症候群（メタボリックシンドローム）の疑いがあるが、予備軍であると言われているそうです。

また、平成17年4月から厚労省より健康診断の中に新規項目として追加されたのが、

- ・腹囲
- ・LDH-コレステロール
- ・血清尿酸

の3項目です。これら3項目にも今後は目を向けてご自分の体調管理をなさってはいかがでしょうか？



## ■ (仮称)特別養護老人ホーム「いこいの里」 進捗状況

施設長代理 岡崎 基



かねてよりお知らせしておりました特別養護老人ホーム「いこいの里(仮)」(平成19年4月開設予定)も本格的な工事に入り、日々外観も様変わりしてくるようになりました。

建築の段階から打ち合わせなどを通じて、完全個室型のユニットケアの特長に合わせた介護のあり方も検討しているところです。まだまだ、皆様にお披露目するには早いのですが、建物が立ち上がったところには、近隣の皆様や関係事業所の方にもご案内

ができることかと思えます。

特別養護老人ホーム「いこいの里(仮)」実行委員会が9月に発足する予定になっておりまして、いよいよ具体的なユニットケア

の在り方もお知らせすることができるとおもいます。すでに特養開設のお問い合わせも多数頂いておりますので、少しでも早く新しい情報をお届けできるようにしていきます。なお、正式な入居申し込みの開始は9月から行いますので、お問い合わせやお申し込みの方は下記までご連絡下さい。

### ■ ご相談窓口

連絡先：社会福祉法人 松樹会  
つくしんぼ藤阪 内

電話：072-868-2191

担当：岡崎



## ■ 中村病院 第2回記念講演会開催



第2回院内講演会が6月27日(火)糖尿病専門医の高橋 輝先生を講師に招いて開催されました。糖尿病の原因、症状、合併症、治療等について講演いただきました。特に治療については合併症の発症、進行を予防するために高血糖を是正すること。つまり血糖コントロールがすべての基本となり、血糖コントロールの手段は食事療法、運動療法、薬物療法の3つが柱となり、この3点にポイントを絞って大変わかりやすく説明いただきました。

参加者からは活発な質問や意見が出され、大変役に立つ有意義な講演会となりました。

(記 中村病院 松永)

## ■ 中村記念病院 褥瘡研修会開催

7月1日(金)、星ヶ丘厚生年金病院よりWOC認定看護師の菅井亜由美先生を招き、ガイドラインに基づく、褥瘡の局所ケアと題し研修会を執り行うことが出来ました。

院内だけでなく、他施設よりも大勢の方に参加していただき内容も実践に伴う有意義な研修となりました。

当院もリハビリテーション病院としてオープンし、褥瘡「0」を目指し取り組んでいます。しかし、医療の現場で褥瘡への悩みは、いつの時代もついて回ります。

そして長い間それは経験に頼った治療に任せられ、時代によりその常識も変化し、昨日まで普通にされていたことが、今日は誤りであったということが多々ありました。

近年エビデンスに沿ったガイドラインが示され、今回のように研修などで現場に広められ、活かすことが出来るように

なりました。

褥瘡の大きな原因は環境要因です。

患者様に日々24時間かかわっているのは看護、介護のスタッフです。

そのスタッフが褥瘡の力骨を握っているのです。

今後当院でも、今回の研修を活かし、褥瘡を作らないことはもちろん、持込の褥瘡の早期治療に努力していきたいと思ひます。

(記 東野)



## ■ 各施設連絡先

### ● 社会福祉法人 松樹会 ●

つくしんぼ長尾 072-868-2190

デイサービスセンター長尾 072-868-2190

有償運送事業(福祉タクシー) 072-868-2190

つくしんぼ藤阪 072-868-2191

たんぼぼ藤阪 072-868-2197

居宅介護支援センターつくしんぼ 072-868-4394

鍼灸接骨院 つぐみ 072-836-8280

居宅介護支援センターつぐみ 072-836-8281

### ● 医療法人 みどり会 ●

中村病院 072-868-2071

地域医療相談室 072-868-2071

中村記念病院 072-868-2070

なごみの里 072-868-2072

配食サービスセンターなごみ 072-868-2072

みどり介護学院 072-868-2194

たんぼぼ長尾 072-868-2195

居宅介護支援センターなごみ 072-868-4391

訪問看護ステーションみどり 072-868-4392

訪問介護ステーションみどり 072-868-4392

枚方市地域包括支援センターみどり 072-845-2002

### —— 編集後記 ——

みどりの風の発刊もお蔭様で2年目に入りました。医療機関等の方々、医療法人みどり会・社会福祉法人松樹会、両法人のご利用者の皆様に季刊誌としてお届けをさせていただいております。理事長の所感、病院・施設等の運営状況、各部門の取組み、事業展開の姿を素直に発表しております。第5号をお届けするにあたり、医療制度改革により厳しい環境にはありますが、地域に根ざした医療・福祉分野で各部門での更なる質の向上に努めてまいります。

季刊誌編集委員会

連絡先 ☎072-868-2071

法人本部 松田